

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071200491		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地	和歌山県紀の川市畑野上272		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3071200491-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、潤いのある、豊かで安心した生活を提供できるようにその日その日をご利用者個々の状態や状況に合わせ、臨機応変に対応可能な限りの個別ケアに努めています。
認知症になっても、沢山の人の関われる様、敷地内に法人内の特養施設、デイサービスが隣接する環境のもと、日常的に馴染みの人との関わりを持ちながら、毎日をその人らしく、笑顔で生き生きと暮らせる様に、日々の生活の中で楽しみを持てる様に、職員全員が日々自問自答を繰り返し、ご利用者個々のニーズに合わせたケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは自然に囲まれた場所にあり、特別養護老人ホームとデイサービスが敷地内に隣接され地域との交流も合同で行うなど、協力体制が築かれています。見直された理念は「誰もが利用したいと思うグループホームを目指します」「地域の中で生き生きと共に笑顔で暮らす」と謳い、職員は自分や自分の親に置き換えて考える事を意識しながら、地域の中で笑顔で暮らしてもらいたいという思いを込めて、日々のケアにあたっています。利用者ののびのびした様子を見つけて介護計画に反映させ、個々に添ったケアが利用者の穏やかな生活となるよう支援しています。また、働き続けられるよう職場環境を整え、職員は心の余裕とゆとりを持つ事ができ、利用者との目線を合わせ傍に寄り添うケアを心掛けることで利用者の笑顔のある生活につながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で生活を継続していけるように、又、地域との関係性をより良くしたいとの思いを入れた理念に基づき、職員全員で共有、実践に努めている。	年度初めのミーティングで見直されたホーム独自の理念は、地域の中で誰もが安心して利用したいと思えるホームでありたいとの思いを簡潔にまとめ、事業日誌やフロアーに掲げています。職員は日々理念に立ち返り、ケアに活かせるよう意識して取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内に隣接する特養施設、デイサービスと合同で、地域交流を目的とした夏祭りや、地域の保育所の慰問による運動会の開催等、法人全体で地域との繋がりを大切に、職員個々も日常の挨拶や地域のふれあい祭りに参加するなど、地域との交流に努めている。	ホームへ地区会長が気軽に来ており、地域の情報が得られる窓口になってもらっています。隣接の3事業所合同の運動会や夏祭りには地域住民も参加したり、隣接事業所に保育園児や踊り等のボランティアの訪問が来られた場合には見学に参加し、地域の方々との交流を利用者は楽しんでいます。また、地元のふれあい祭りの手伝いや地域のさつまいも掘りにも参加するなど、地域とのつながりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた研修会等の実施はしていない。運営推進会議時に支援に関する知識や実践経験等について話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動状況やご利用者の状況、職員の研修や異動、リスク等を報告し、参加者の意見等を事業所のサービス向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議は、市や地域包括支援センター職員、民生委員、地区会長の参加を得て、年6回開催されています。利用者の状況や活動、職員研修を報告し、リスク等について話し合われ、重度化の対応について家族からの質問もあり、意見交換が活発になされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に適時の相談をさせて頂き、連携を取り、随時適切にご指導頂いている。	困ったことや分からない事は電話で相談しています。市担当者は毎回運営推進会議に参加し、ホームの現状を知ってもらい、助言が得られるなど、協力体制が築かれています。市から研修案内が届いた時は、出来るだけ参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH内研修、及びミーティング時や日々のケアの中でも身体拘束となる行為を職員相互に話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠についても、夜間以外は施錠せずに職員が同行や見守りを行い自由に入出入りして頂いている。	玄関は施錠せず自由に入出入りできます。帰宅願望があり、家まで歩いて帰られる利用者には納得するまで職員が付き添っています。言葉により利用者の行動を制止する事があれば、その都度職員間で注意し話し合っています。新人職員については研修の中で説明し、身体拘束についての理解を深め、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加及びGH内研修、事業所ミーティングの中で学ぶ機会を作り、又、日々の業務の中で話し合い、常に第三者の視点で見る意識を持ち虐待防止に努めている。		

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで、活用が必要なご利用者はいませんが、今後対象者が入居された場合を想定し、機会があれば外部研修等参加するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご利用者やご家族の不安や疑問等を尋ねながら重要事項を説明するとともに起こりうるリスクや重度化された場合に事業所として対応可能な範囲を説明し同意を得る様にしている。又、必要に応じて都度ご家族に説明、納得の上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中で、ご利用者本人の意見や希望に耳を傾け、言葉や態度、表情からご本人の意向を探りながら、ご利用者本位のケアに努めている。又、ご家族の訪問時にご本人や職員との会話の中で意見や要望を聞き取る声掛けをし、意見や要望に対し柔軟に対応出来るようその都度職員間で話し合い、共有し反映出来るよう努めている。	家族には面会時や電話、運営推進会議で情報を伝えながら、話しやすい雰囲気づくりに努め意見や要望を聞いています。また毎月の様子を報告書に写真も添付して、細やかな状態報告をしています。さらにメールにも写真を添付し意見交換することで信頼関係が築けるよう努めています。職員は利用者同志の日々の会話の中で要望を聞き取り話し合い運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や面接時など定期的に職員の意見を聞き、反映するようにしている。日々の業務の中で気づく事や不安等の思いを個々に問いかけ聞き出せる様心掛けている。	管理者は何でも話しやすい関係づくりに努めています。年2回人事考課での自己評価を行ったうえで法人や上司に意見を伝える事ができ、課長や管理者による個人面談も年2回行っています。職員の様子を見てその都度意見を聞いたり、ミーティングで利用者の状態の変化、リスク等について出された職員の意見は改善に向け検討し、実践に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己チェックシートを用い、自身の日々の業務を見直しながら、成長を目指せる環境作りと人事考課により、個々の努力や実績を評価出来る環境作りに努めている。又、行事計画を立案、実施できる機会を設け、職員個々の希望や得意分野を活かし、やりがいや向上心が持てる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修になるべく参加できるようにし、研修報告書の作成、供覧とミーティング時にフィードバックし、職員全員が周知出来るよう努めている。又、日々の業務の中で職員個々に合わせた育成ができるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では隣接する特養施設、デイサービスと日常的に交流があり、法人内GH間においても、交流会等で交流を持てる機会が作れる様心掛けている。地域の同業者と交流する機会は少ないが、ご利用者との外出先で同業者に会えば必ず挨拶を心掛け、又、外部研修等の参加時に交流が持てるよう心掛け、サービスの質の向上に努めている。		

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でご本人の状態、状況を把握するよう、又、不安や悩み、求めている事等を聞き取れるように努めている。ご利用者の状態によっては入居前から職員と関わりを持ち、馴染めるように関係作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学を兼ねて来居して頂き、事前面談でご家族の状況、困っている事や悩み、求めている事等を聞き取り、事業所として出来る対応を話し合い、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人が必要とされている支援が自事業所で提供困難な場合や受け入れ出来ない場合は法人内サービス等への相談、紹介等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意な事や好きな事に合わせ、家事作業やレクリエーション等、一緒に行い、協働しながら穏やかな日常生活が出来るような場面作りや誘い掛けを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来居時はご本人の近況をお伝えし、ご本人とご家族が語り合い、より良い関係を保てる場面作りに努めている。又、毎月様子報告書を送付し、ご本人の日々の暮らしの様子や身体状況等を伝えている。ご本人に変化があれば都度連絡し、対処法を相談、共に協力をしながら、ご本人を支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外に時折ではあるが、知人や親類の方々が面会に来居されるご利用者はいる。又、定期的に敷地内のデイサービスや特養施設を訪問し、馴染みの知人や職員と交流を持っている。初詣等の外出も馴染みの場所に出かけるよう配慮している。	近所の方や友人、仕事仲間の面会時には居室に案内し、お茶を出す等くつろいでもらえる環境を提供しています。ドライブで馴染みの場所に立ち寄ったり、行きつけの美容室やスーパーにも出かけています。また、隣接したデイサービスの友人や顔見知りの職員との行き来があるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の状況に合わせ、気の合うご利用者同士で過ごせる場面作りをしている。食事やお茶の時間は職員も一緒に過ごし、調整役をしながら、ご利用者同士で良い関係性作りが出来るよう介入している。		

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内施設や病院に移られたご利用者を訪問したり、ご家族に出会えば近況を伺ったりしている。必要に応じてご家族からの相談にも対応。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のさりげない会話や言動の中でご本人の希望の把握に努めている。ご自身の希望等あまり言葉に出さないご利用者はご家族からの情報やご本人の日々の中での表情や行動、態度で把握するよう努めている。	入居前の面談で聞いた情報や意向をアセスメント用紙に記録し、家族にも分かる事は記入してもらっています。入居後の日々の関わりの中で得た気づきや思いに繋がるような事象などを追記し、職員間で情報を共有しながら思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前より、ご利用者本人又はご家族や入居以前の担当の介護支援専門員やサービス事業所からの情報収集を行っている。又、入居後も折に触れ、ご本人やご家族より聞き取り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズム、日々の状態を職員全体で共有、把握出来るように記録している。又、一日過ごされる中で、ご利用者個々に誘い掛けを行う事により、出来る事や解る力を見落とさないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、ご本人の困っている事、ご家族の思いや求めている事を取り入れられるよう、職員間で共有、意見交換しながら反映できるよう努めている。ご利用者の状態変化があれば、その都度見直し、作成している。	アセスメントや利用者、家族の思いを把握し、1ヶ月に1回のケース会議の中で職員の意見を聞き、介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に再アセスメントを行い見直しています。かかりつけ医の意見も反映し、介護計画に沿ったきめ細かな記録が見直しに活かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者個別に日々の様子や変化が見られた時の身体的及び精神的状況を記録し、いつでも全職員が確認、共有できる。個別記録をもとに月1回のミーティングで職員全員で情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人、ご家族の状況に応じて通院等、柔軟な対応が出来るよう努めている。		

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	初詣やお花見等、外出時は、長年、馴染んで来られた地域の公共施設等を利用した外出支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご利用者個々に入居前からのかかりつけ医を継続受診している。他科の受診や通院の必要がある場合はご家族の協力を得ながら、ご本人やご家族の希望に応じた医院で対応している。	全員の方がかかりつけ医を継続し、通院支援は職員が行っています。専門医や利用者のその時の状況により、ご家族にも協力を得て通院して頂いたり、同行をお願いする時は、受診時の情報提供を行い家族からも結果報告があります。緊急時はかかりつけ医へ連絡したり救急搬送で対応しています。日中は施設の看護師に相談することもあり、適切な対応ができるよう努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要があれば、隣接する法人内の看護職員に協力を求め、緊急時や日々の細かな変化時等、相談、アドバイスを頂き、健康管理や早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、各かかりつけ医に細かな変化を報告、相談し、連携を図っている。入院時にはご家族と相談しながら、入院先の医師や病院関係者に日頃の状態や支援方法を情報提供している。入院中は極力頻繁に訪問し、ご家族や病院関係者と情報交換、相談しながら早期に退院出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時より、重度化した場合の事業所が対応し得る最大限のケアについて、ご家族に説明し、状態の変化があれば、その都度ご家族やかかりつけの医師と相談し、ご本人の希望に応じた支援を行えるよう努めている。	契約時に重度化や看取りについての対応を説明し、ホームで対応出来ることや出来ない事など具体的に伝え、施設への入所の手続き等を含め支援しています。これまで看取りの事例はありませんが、状況の変化があった場合は、早い段階から医師や家族、職員が話し合いを重ね、様子をみながら出来るだけご家族やご利用者が安心してホームで暮らし続けられるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部及び外部研修等、機会があれば参加し、応急手当や事故発生時の対応を理解している。職員個々に不安を持った場合はその都度話し合い、対応方法を再度確認周知するよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を含めた火災時の総合訓練をご利用者と共に行い、災害時に備えて常に「万が一、起こった場合」を考える意識を持ち、日頃より、避難経路の確保、点検を心掛けている。又、地域と協力し合えるよう、運営推進会議で議題にあげ、話し合っている。	夜間を想定した自主訓練を利用者と一緒に行っています。隣接の3事業所が協力できるようなマニュアルに沿って消防設備の説明やビデオ研修も実施しています。地域の消防団に参加依頼を行っていますが、今のところ参加に至っていません。運営推進会議時には、常に地域の方との協力体制を築ける様、議題にはあげています。	防災訓練は昼間の想定や地震等に向けた訓練も含め、地域の方に参加を呼びかけ助け合える関係を築いていかれるきっかけにされてはいいかでしょうか。

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や誇り、個性を理解し、常にご利用者の立場に立って、個々に合わせたさりげない言葉掛けとご利用者同士の関係性、プライバシーやプライドに配慮し、職員が介入したり、事前に回避出来る様、心掛けている。	新人職員は接遇マナー研修で言葉遣いや対応について学び、ミーティングで人格を尊重したケアができていくか振り返っています。排泄の失敗があった場合は、さりげない声かけでトイレや居室誘導を心がけています。居室にはノックをし声をかけて入室し、名前は姓で呼び理由があって下の名前で呼ぶ時は家族の了解を得るなどの配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いを大切にし、何気ない会話の中でもご利用者の思いを聞き逃さない様努め、その日したい事や外出、入浴の希望等、誘い掛けにより、常に自己決定できる場面作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や状態に配慮しながら、一日の生活を極力ご利用者個々のペースに合わせて行っている。レクや家事参加を行ってくれる日もあれば、何もしたくない日等、その日その時をご利用者一人ひとりの思うペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容をあまり気にされなくなったご利用者には、声掛け、誘い掛けし、必要に応じて介助しながら、個々のこだわりや好みを大切に、見守りながら、ご本人が身だしなみやおしゃれを自己決定し、楽しめるようさりげなく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みや身体機能、日々の体調に合わせた対応をしながら、個々に出来る範囲の準備を手伝って頂き、職員も同じ食事を食べている。行事に応じた料理や旬の食材を取り入れる様、心がけ、時には庭先で作った野菜を使い、楽しみを持って頂ける場面作りを心掛けている。	献立は利用者の食べたい物を聞き決め、専任の調理担当と職員とで作っています。食材はスーパーに配達依頼し足りない物等は利用者と一緒に買い物に行き、利用者は下ごしらえやテーブル拭き、下膳等の出来ることを職員と一緒にしています。職員は利用者と共にテーブルを囲み食事を楽しんでいます。誕生日には好みの物を聞き、クリスマスには寿司を注文したり、外食に出かける等食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回記録し、食事量の少ないご利用者には、栄養補助剤や嗜好品を取り入れ対応している。水分摂取はこまめに勧め、摂って頂ける様心掛けている。又、管理栄養士に3ヶ月毎に献立をチェックしてもらい、栄養バランスの指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛けを行い、ご利用者個々の力に合わせ、誘導、見守り、介助を行っている。		

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の生活記録でご利用者個々の排泄パターンや排泄のサインを把握し、尿意の乏しいご利用者も時間を見計らい、さりげなくトイレ誘導を行い、リハビリパンツやパット類の使用を減らせるよう心掛けています。出来る事は取り上げることなく、見守りながら、ご自身で行って頂いている。	ほとんどの方が自立しており、日中のトイレでの排泄を支援し、夜間のポータブルトイレ使用時も見守りや観察を行い、自立に向かえるよう支援をしています。紙パンツを使用されている利用者も失敗がなく布パンツに変更になった方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者個々に原因の把握を行い、水分摂取、繊維質の多い食材の使用や運動を取り入れ、出来るだけ自然排便出来る様心掛けています。また、状態に合わせて、各かかりつけ医に相談し、便を軟らかくする薬や便秘を改善する薬等に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者個々のその日の希望や体調に合わせて、毎日、若しくは隔日に入浴して頂いている。基本的には午後からの入浴を予定しているが、希望があれば午前中の中の入浴も可能。入浴拒否があるご利用者には拒否の理由を考慮し、声掛けのタイミングや時間帯を工夫しながら、強制せずにご自身の意思で入浴して頂いている。入浴しない日は足浴や清拭で対応している。	基本的に時間帯は14時半から17時ごろまで毎日入浴の支援をしています。ご利用者の希望に合わせて、毎日入浴される方もいれば隔日に入浴される方もいます。拒否される方には希望で夕食後に入ってもらうこともあり、時間変更にも対応しています。季節の菖蒲湯や柚子湯を楽しんだり、好みのシャンプーや石鹸を使い本人のペースでゆっくりと入浴が楽しめるよう支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間はご利用者個々のペースに合わせ、夜間入眠出来ない場合は一緒に会話をしたり、お茶を飲んだりしながら、安心して入眠出来る様支援している。ご利用者個々のその日の状況や状態に合わせて昼寝等で休息を補える様配慮している。又、居室内の温・湿度管理にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が内容を把握出来る様にしている。服薬時には手渡し、服用できたかの確認をしている。薬の変更があった場合やご本人の状態変化がある時は詳細に記録をとり、状況に応じてかかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、何事にも誘い掛けを行い、家事参加やレク、手芸等楽しみを持ちながら、出来る事は進んで行って頂けるよう心掛けています。又、生活習慣を継続出来る様に、梅干作りや昔ながらの行事等もご利用者の経験を伺いながら楽しんで頂いている。直接参加されなくても、傍で見ながら楽しんでいるご利用者もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人のその日の状態や気候に合わせながら、買い物や近隣の散歩、ドライブ等ご本人の希望に添った外出支援を行っている。又、同一敷地内にある特養やデイサービスに日常的に出入りし、馴染みの職員やご利用者と交流している。地域の公共施設に出掛けたり、楽しみを増やせる様努めている。	日常的に天気の良い日には車椅子の方も庭先で外気浴をしたり、近隣への散歩、スーパーへ買い物に出かけています。初詣や季節の紅葉を見に出かけ、馴染みの寺やゆり山などドライブにも出かけ、気分転換を図っています。ご家族と一緒に自宅に日帰りされたり、外泊、外食などにも出かけられています。	

グループホーム友愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承を得て、事業所がお金を預かり管理しているが、ご本人の希望に合わせ、一部のご入居者はご自身でお小遣いを所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自らご家族に電話をしたり、ご本人宛に親類から電話連絡があるご利用者も居られ、会話を楽しまれている。又、毎年、ご本人が希望される方宛に年賀状を出されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事作りの匂いや他のご利用者、職員の気配を感じながら、個々が落ち着いて暮らせる様な空間作りを心掛けている。一緒に洗濯たみやおやつ作りを行う事で生活感を持ち、又、季節感を感じられるよう手作りの装飾物を一緒に作成し飾っている。	玄関先には野菜や花が植えられ、鉢植えの花も置いてあります。生花や季節に合わせた手作りの作品がフローアに飾られ、季節感が感じられるようにしています。広いリビングには大きなソファやテレビが置かれ、小さな椅子もあり一人で寛げる空間も作っています。畳コーナーでは洗濯物を畳んだり、食事を作る音や匂いの中で穏やかに生活を楽しみ家庭的な雰囲気です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に、又は気の合うご利用者同士が好きな場所で過ごせるように、玄関やホールの所々に椅子やベンチ等を置き、その時々、ご自身が居たい場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に理解と協力を求め、出来るだけ自宅からご本人の使い慣れた、馴染みの物を居室に持ち込んでもらい、違和感なく生活してもらえる様に配慮している。	ベッドと押入れが備え付け、持ち込まれた馴染みのテレビや机、椅子、鏡、冷蔵庫等を置き、配置は本人や家族と相談しながら考えています。音楽が好きな方はラジカセ、コーヒーの好きな方はコーヒーセットやポットを置くなど、今までの生活が継続できその人らしく過ごせる居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の意見を取り入れながら、それぞれの箇所にさりげない表示をし、個々の状態に合わせ、危険と思われる物は固定するなど、安心した生活が出来る様配慮している。		